

新規の取組で対応するもの

分類	項目	ご意見の内容	ご意見に対する考え方
中期全体	—	<p>平成26年1月18日（土）am 1 0時から開催されました「市民との意見交換会」に参加させていただきました。市民の方々から様々なご意見が発言され、意義のある交換会であったと認識しております。特に、前期実行計画の検証では、行財政改革と新規事業の進捗状況には十分期待に添えるもの思いました。また、市民の発言の中でも、大変有意義なご提言もありました。例えば、『市の様々事業をクリエイトする側と市民との間をつなげる「サービス提供力」を持った人材の育成が急務である』事、等、「市民力」の更なる底上げには、行政の考え抜かれた事業の執行に際し、いかに参画意識を高めるか、また、そこに市民の力をいかに結集させることができるのか、が大事なポイントになるのではないかと思います。</p> <p>残念なことは、個別の課題に関する発言もあり、むしろ、「市民」として4年後の「宇部市」をイメージできる議論に深めていただきたかったことです。</p> <p>例えば、4年後も、今の少子高齢化の荒波を蛇行しながら、必然的に訪れる人口15万都市での高齢者が中心の洗練された町のイメージを目指すのか、それとも市役所の新築を意図する議論の中で、中核都市機能を維持するための広域化（含む連携）に移行し、若年層の幅広い人材が育つ町を目指すのか、等、「市民」として、この判断を求められる大事な4年間であることを認識させ、この中期実行計画を意義あるものとして情宣（議会、議員の役割）し、実行することを期待したいと考えます。</p>	<p>これからも、まちのあり方や、市政運営の方向性等をしっかりと定めながら、中期実行計画の各施策を進めていきます。</p> <p>なお、中期実行計画では、市民等との協働のまちづくりを進めるため、将来のまちづくりの方向性を市民目線で議論する『まちづくり市民委員会』や、若い世代がまちづくりに関心を持ち、未来のまちづくりに向けて提言する母体となる「（仮称）宇部未来センター（若者会議）」の創設を予定しています。</p>
産業力強化・雇用対策	新事業・新産業の創出	<p>宇部市独自の施策を目指すとのことであるが、山口県の「やまぐち産業戦略推進計画」と連動することが重要である。</p>	<p>中期実行計画を進めるに当たり、山口県が実施する政策・施策等への連動は非常に重要です。やまぐち産業戦略推進計画で掲げる重点戦略の一つである「水素等環境関連産業育成・集積戦略」に基づいたEV等次世代自動車・インフラの導入促進など、山口県と連携した取組を本市でも進める予定です。</p>
低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	<p>取組の方向性の「低炭素まちづくり」の施策「中心市街地のにぎわい創出」について、ご意見にもありました様に少し違和感を覚えましたが、「取組の目標」をよく読めば、この施策の意味が理解できます。しかし、このままでは、一般の市民の方々には誤解を招く表現となっているようです。</p> <p>例えば、「中心市街地の都市機能の構築」としたら如何でしょうか？</p> <p>また、取り組みの目標の中に、・・・「魅力ある中心商業地づくり」・・・とありますが、「魅力ある中心生活拠点づくり」・・・とした方が、今回の「都市の低炭素化の促進に関する法律」の趣旨に合致しているように思います。</p> <p>この目標に関する主要事業に「市庁舎建替え事業」が新規事業として組み込まれています。「市庁舎をどこにするか」ということでもあります。今の宇部市の現状からすると、市庁舎の建設と既に存在する大規模商業施設の再構築をリンクすることは難しいと思います。</p> <p>「市庁舎建替え事業」については、専門家はもちろんの事ですが、「市民」との十分な議論を踏まえて進めていただきたいと考えます。</p>	<p>『中心市街地のにぎわい創出』は、都市機能の構築などのハード事業と、商業支援やイベント開催等のソフト事業を盛り込んでいるため、施策名は『中心市街地のにぎわい創出』とします。</p> <p>また、市庁舎は『中心市街地のにぎわい創出』のための核施設と位置付けています。</p> <p>市庁舎の建替えについては、多様な意見を聴くため、専門家も含めた市民委員会を設置し、建替えに関する基本的な考え方をとりまとめることとしています。</p>
低炭素まちづくり	中心市街地のにぎわい創出	<p>自然災害時に市民の避難場所として機能するような、耐震性や高さを備えた市役所庁舎の新設または改築が必要ではないか。</p>	<p>市役所本庁舎については、老朽化や耐震性などに問題があるため、建替えが必要であると認識しています。このため、現在、庁内の検討組織で現庁舎の現状や課題を整理するとともに、庁舎建設の基本的な考え方について検討しています。また、市民の議論を通じて本庁舎の建替えについての基本的な考え方をとりまとめるため、市民委員会を設置します。</p>
中山間地域	中山間地域の振興	<p>霜降山の管理道の両側の1キロ桜の木の保護。桜の木周りの雑木の伐採。桜の木、桜の木の間に紅葉を植える高齢者対策</p> <p>常盤公園みたいに記念樹で植える今からあちこちの公園に芽が出ているのを育てる。</p> <p>荒滝山、霜降り山の頂上の整理。多賀丘菩提寺さんの間に藪椿の群生がある。観光の名所になる。</p>	<p>平成26年度に、4つの山（霜降山、荒滝山、平原岳、日の山）の市民の憩いの山づくり構想と事業計画を策定するにあたり、地元の方や関係者のご意見をお聞きしながら進めていきます。</p> <p>また、霜降山は、頂上付近を含めて大部分が保安林に指定され、基本的には伐採等の行為が禁止されていますが、上記の「市民の憩いの山づくり構想」として整備計画を立てることとしており、その計画の中で可能な限り対応していききたいと考えます。</p>

新規の取組で対応するもの

分類	項目	ご意見の内容	ご意見に対する考え方
中山間地域	中山間地域の振興	「山や湖など自然環境を生かした地域活性化事業」地域住民不在での地域活性化事業とならないように、執行段階では実施主体に留意いただきたい。	平成26年度に、4つの山（霜降山、荒滝山、平原岳、日の山）の市民憩いの山と4つのダム湖（小野湖、未来湖、丸山ダム、今富ダム）花回廊構想と事業計画を策定するにあたり、地元の方や関係者のご意見をお聞きしながら進めていきます。計画に基づいた事業を執行する際にも地元住民の皆様と共に事業を進めていきます。
医療・健康・長寿	生涯現役社会づくりの推進	<p>中期実行計画の方向性や施策に関して特段の違和感があるわけではありませんが、まもなく65歳を向かえる私たちの年代は次第にリタイアする人が増えてきています。リタイア後、東京郊外に隠遁しようとする人も居ますが、郷里に帰ろうとしている人も居ます。特に郷里に帰る人は、宇部市の外で、いろいろな仕事を経験してきた人たちで、それなりの経験、技能やノウハウを持っています。これらの郷里に帰っていく人に限りませんが、リタイアした人たちをもっと活用できるような仕組みがあると良いのではないかと思います。</p> <p>「地域経済の活性化」・「産業力強化・雇用対策」・「高齢者・若者等の知識・技能の活用」のところに「高齢者労働能力活用支援事業」とありますが、具体的には、このリソース確保の一環として、リタイアして、特に帰郷する人たちが経歴や希望などを登録しておいて、需要や求めに応じて、有給・無給で貢献するといった仕組みがあるとよいのではないかと思います。</p>	
医療・健康・長寿	生涯現役社会づくりの推進	高齢者の役割分担をPRし、協力体制を整備する。	高齢者が長年培った知識・技術・経験を生かし、地域を支える力として社会参加できる環境の促進を支援する事業として、新たに「高齢者の本領発揮支援事業」を実施します。
医療・健康・長寿	生涯現役社会づくりの推進	川柳になっている「ピンピンコロリと子孝行」とあります。元気で健康な人生を送るために、高齢者の雇用対策までに行かなくても半雇用や有償ボランティア制度を発足させて現役時代の知識・技術を活用したらどうですか。	
医療・健康・長寿	生涯現役社会づくりの推進	定年後の人々をもっと活用できるように企画指導してみたら良いのではないのでしょうか。	
医療・健康・長寿	生涯現役社会づくりの推進	「生涯現役社会づくりの推進」が進むと、県外に住んでいる住民が宇部に帰ってくるインセンティブになると思う。	
医療・健康・長寿	生涯現役社会づくりの推進	「生涯現役社会づくりの推進」のなかで、「高齢者の本領発揮事業」の具体的な内容は。各校区の見守り隊のようなことをするのか。	
地域・安心・人権	地域コミュニティの充実	「地域コミュニティの更なる充実」と言うが、既存のコミュニティが点で行動している現在の状況を線で描いていくことが真に求められているし、求めていきたい。⇒北部地域においては、点で動いているコミュニティ間を面で行動できるような取組を展開していきたいと考えています。最終的にビジネスとして認知されないとコミュニティは維持されないと感じます。	地域住民のひとりひとりが地域に対する愛着と当事者意識を持ち、自分の住む地域の課題や特色を理解したうえで、地域の将来をしっかりと見据えた活動に取り組めるよう支援していきます。また、中山間地域においては、豊富な地域資源や特産物が、コミュニティビジネス（経済活動）として成り立ち、過疎化や高齢化を打開するなど地域の維持や活性化につながるよう、中山間地域支援員などと連携をとりながら支援します。

新規の取組で対応するもの

分類	項目	ご意見の内容	ご意見に対する考え方
まちづくり共通基盤	市民との協働	<p>私は今26歳で、昨年、農業で宇部に貢献するため、故郷宇部に帰ってきた身です。帰ってきて、”宇部のこれから”について学びたいと思って参加させて頂きました。”緑と花と彫刻のまち”、工業など産業が栄んな市として、これからどうするか。もっともっと盛り上がるための課題がちりばめられた会でした。ぜひ、こういう場も、定期的に催してほしいです。行政まかせには、したくありません。”形式美”で終わらせたくありません。誰が潤うのか、限られた時間・予算で市長を筆頭に市民が考えて動ける面白い市にしていきたいです。ありがとうございました。</p>	<p>これからも、市民の皆様をはじめ、様々な方のご意見に耳を傾け、共に考えながら、誰もが住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりを進めていきます。中期実行計画では、市民等との協働のまちづくりを進めるため、将来のまちづくりの方向性を市民目線で議論する『まちづくり市民委員会』や、若い世代がまちづくりに関心を持ち、未来のまちづくりに向けて提言する母体となる「(仮称)宇部未来センター(若者会議)」の創設を予定しています。</p>
まちづくり共通基盤	市民との協働	<p>市政への提案を毎年行っているのですが、大学生を含めて、市政について考えて提案するミーティングの場をもちたい。</p>	<p>若い世代の市政参画を促進するため、「若者会議」を開催します。</p>
まちづくり共通基盤	市民との協働	<p>若者会議は地域と連携する良い機会なので、学部(大学)の代表を推薦したい。</p>	<p>若者会議には学部の推薦や、自主的に希望される学生など多数の方に参加していただきたいと考えています。</p>
まちづくり共通基盤	市民との情報共有	<p>施策体系図にもありますが、施策(約50)があるが、取組の方向性(9項目)の振分けを現実性と同様種子を合体させてプロジェクトを組んで(例:地域経済の活性化)、実現委員会を立ち上げて、合同プロジェクトチームを再編成したら、もっと市民・行政が常に本日のような会合を開いて施策の現状と市民の意見を共同していくともっとわかると思います。</p>	<p>中期実行計画では、市民等との協働のまちづくりを進めるため、将来のまちづくりの方向性を市民目線で議論する『まちづくり市民委員会』や、若い世代がまちづくりに関心を持ち、未来のまちづくりに向けて提言する母体となる「(仮称)宇部未来センター(若者会議)」の創設を予定しています。</p>